

会 議 録

1 会議名

令和5年度 第10回三郷区地域協議会

2 報告（公開・非公開の別）

（1）上越市保育園の適正配置等に係る計画（第4期）案について（公開）

（2）地域独自の予算の事業一覧について（公開）

3 議題（公開・非公開の別）

（1）「地域活性化の方向性」に基づいた自主的審議事項の検討について（公開）

4 開催日時

令和6年2月20日（火） 午後7時10分から午後8時41分まで

5 開催場所

三郷地区公民館 集会室

6 傍聴人の数

3人

7 非公開の理由

—

8 出席した者（傍聴人を除く。）の氏名（敬称略）

- ・ 委 員：竹内浩行（会長）、伊藤善一（副会長）、保坂裕子（副会長）
市村 学、伊藤光夫、小山和美、平田 清、平田伸一、山口典夫、
吉田一彦、渡部弘美（欠席者1人）
- ・ 幼児保育課：小山課長、伊倉副課長、徳永係長
- ・ 事務局：南部まちづくりセンター 大島所長、滝澤副所長、石黒係長、難波主任

9 発言の内容

【難波主任】

- ・ 荏戸委員を除く11人の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・ 同条例第8条第1項の規定により、議長は竹内会長が務めることを報告

【竹内会長】

- ・ 会議の開会を宣言
- ・ 会議録の確認：吉田委員、渡部委員に依頼

次第2「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【滝澤副所長】

- ・ 配布資料の確認
- ・ 次第に基づき、議題の確認

【竹内会長】

事務局の説明について、質問のある委員の発言を求めるがなし。

— 次第3報告（1）上越市保育園の適正配置等に係る計画（第4期）案について —

【竹内会長】

次第3報告（1）上越市保育園の適正配置等に係る計画（第4期）案についてに入る。

幼児保育課より説明を求める。

【幼児保育課：小山課長】

- ・ 挨拶

【幼児保育課：徳永係長】

- ・ 当日配布資料No.1により説明

【竹内会長】

- ・ 今ほどの説明に質疑を求める。

【伊藤副会長】

この計画案や統合について、具体的には決まっていらないと思うが、地域の皆さんや町内会への説明はどのように行うのか。

【幼児保育課：徳永係長】

保護者に今回の統合に向けた市の考え方を説明する前の段階で、三郷区ではまず三郷地区町内会長協議会に対して計画の基本方針、市の取組の骨子について説明を行い、その後、保護者への説明に入らせていただいた。保護者との意見交換では様々

な意見をいただいたが、その内容については、都度、町内会長を通じて情報提供をさせていただいている。

また、今年の夏ごろに現時点の取組状況として、この区域においては大和、和田、三郷の三つの保育園を統合させていただきたいという市の考え方とそれに対する保護者の意見も記載した文書を各町内会で回覧していただき、住民に周知した。引き続き継続的に保護者との意見交換をさせていただくが、都度、町内会長を通じて地域の方に情報提供をしていきたいと考えている。

【竹内会長】

三郷区としては、小学校が統合され保育園も統合すると子どもたちがだんだんと地域から離れていってしまうというか、地域の施設がなくなってきてしまう状況になる。地域協議会として課題解決に向けていきたいと思っているので、都度、情報提供をいただきたい。

以上で、次第3 報告（1）上越市保育園の適正配置等に係る計画（第4期）案についてを終了する。

（幼児保育課 退室）

— 次第3 報告（2）地域独自の予算の事業一覧について—

【竹内会長】

次第3 報告（2）地域独自の予算の事業一覧についてに入る。

事務局より説明を求める。

【難波主任】

- ・当日配布資料No.2により説明

【竹内会長】

- ・今ほどの説明に質疑を求めるがなし。

以上で、次第3 報告（2）地域独自の予算の事業一覧についてを終了する。

— 次第4 議題（1）「地域活性化の方向性」に基づいた自主的審議事項の検討について—

て —

【竹内会長】

次第4議題(1)「地域活性化の方向性」に基づいた自主的審議事項の検討についてに入る。

三郷地区関係団体との意見交換会では、三郷夏祭りをより盛り上げるための方策を関係団体に提案した。三郷地区体育振興会からは、令和6年度の夏祭りの実施計画や実施体制の情報をいただいた。三郷地区町内会長協議会や三郷地区子供会の役員からもいろいろな意見をいただいた。

その後、正副会長と事務局等で協議した結果、意見交換会での提案内容や関係団体からいただいた意見をまとめた記事を地域協議会だよりに掲載し、地域住民に報告することを提案したい。まず、提案のとおり地域協議会だよりを発行することを皆さんから決定いただき、その後なたよりの原稿案について意見をいただきたい。

提案のとおり、地域協議会だよりで意見交換会の報告をすることとしてよろしいか。

【平田伸一委員】

地域協議会だよりに出すのはよいが、全戸配布されるのだから「地域活性化の方向性」を載せたほうがよいのではないか。過去にも全戸配布したことがあるかもしれないが、この方向性は今後これをベースに協議を進めていこうという考え方で作ったものである。もっと多くの機会に方向性を周知するようにしたらどうか。

意見交換会を開催したことよりも、この方向性をもっと知らしめていくことが地域協議会として必要だと思う。

【竹内会長】

まず、地域協議会だよりを発行することについては、決定することによろしいか。
(「よし」を確認)

平田伸一委員から記事の内容について提案があったが、まずは事務局から原稿案について説明を求める。

【難波主任】

- ・当日配布資料No.3により説明

本日は、この原稿案について意見をいただき、修正が必要な箇所があれば修正点を確定させ、最終稿としたいと考えている。

【竹内会長】

事務局から地域協議会だよりに掲載する意見交換会の内容について説明があった。平田伸一委員から「地域活性化の方向性」の周知をすべきという意見もあった。それも含めて意見等あればお聞きしたい。

【渡部委員】

意見交換会の際の説明では、今年ではなく主に来年の夏祭りの参考としていただくための提案ということであったが、この記事を見ると今年の夏祭りの内容が記事のとおりとなるように思われてしまうのではないか。地域協議会がここまで具体的にアイデアを記載すると、既に体育振興会の会長が主になって準備が進んでいる実際の計画と整合性が取れないというか、地域協議会が主導権を横取りしてしまうようなイメージになる。この記事を出すのであれば、体育振興会の会長がどう思うのか心配である。このアイデアは、来年に取り入れてもらえればよいという認識だったので、その辺りの話し合いが必要ではないか。

【竹内会長】

先ほど報告のあった令和6年度の地域独自の予算の事業一覧で夏祭りの事業が予算案とされているが、このアイデアは全部が可能というわけではなく、取り入れられるところは取り入れてほしいという話をしたところである。渡部委員の意見は、この記事を出してしまうと、これら全部が今年の夏祭りに反映される誤解を受けるのではないかという意味も含んでいるのか。

【渡部委員】

地域協議会が実行しているイメージが強くなるのではないか。

【平田伸一委員】

今、議題として協議しているのは「地域活性化の方向性」に基づいた自主的審議事項の検討ではないのか。それが地域協議会だよりの内容の検討となっているが、

ちょっと違うように思う。

【竹内会長】

私たちが「地域活性化の方向性」をどう生かしていくかという点について協議してきた結果、夏祭り、リーダー育成、地域のイベントを強めていきたいということになり、まず夏祭りについてどのような提案をしていけばよいか、皆さんからアイデアを出していただいた。平田伸一委員が言うとおりの協議のベースになっているのは「地域活性化の方向性」だが、原稿に方向性を掲載するのかどうかである。方向性が完成したことは、既に地域協議会だより第53号で地域の皆さんに示しており、私も地域の様々な会議に出席する度に周知している。方向性のタイトルと構成要素をもう一度掲載したほうがよいのか、それとも意見交換会の開催の報告記事となっている構成を少し変えたらよいのかという論点もあるが、皆さんどうか。

【大島所長】

地域協議会だより第53号で「地域活性化の方向性」を決定したという記事を掲載している。資料の原稿案の表面、ゴシック体になっているところが方向性の上の見出しのところに書いてある目標である。

また「このような地域を目指すこととした」という構成要素があるが、最初に「地域リーダーや次世代を担う人材の育成と社会教育の充実」を掲げている。それを実現していくための取組として、アンダーラインの箇所に「地域イベントに若い人たちから参画してもらって復活または継続させていくことが非常に大事ではないか」という結論を記載し、この意見交換会を開催したという記事にした。

平田伸一委員が言われるように方向性が前提にあるのは確かだが、第53号で全体を載せており、今回また全体を載せると繰り返しになると思った。方向性が最も目指している目標と、そのために最初にしなければならないことをゴシック体で書き、そこから意見交換会につながったと伝える意図で原稿案を作ったところである。

【竹内会長】

ベースになっているのは、平田伸一委員が言うように「地域活性化の方向性」である。その中で私たちが最も重要としたものが地域リーダーの育成であり、それを目指すために何が一番よいのかを考えたところ、イベントとしての夏祭りが出てき

た。地域協議会だよりの構成として、基本的にいつも「地域活性化の方向性」をベースにした協議の報告をしている。渡部委員が言うように地域協議会が主体となって夏祭りを実行するというとらえ方にはならないように思うが、保坂副会長どうか。

【保坂副会長】

渡部委員が指摘した点について、私もこの文章をじっくり読んでそのような見方もされてしまうのではないかと思えてきた。枠の線から上の2行目「参加者の皆さんから貴重なご意見をいただき」の前に補足する文章を付け加えて、誤解のないような表現にしたほうがよいと思った。意見交換会に至った経緯などをよく知らない人が読むと誤解してしまうかもしれず、その辺りは配慮すべきではないか。どのような言葉にしたらよいかはすぐ思い浮かばないので、三役で検討したい。

【山口委員】

平田伸一委員は、この議題となっている「地域活性化の方向性」に基づいた自主的審議事項の検討についてどうなっているのかという意味で質問されたのだろう。それについては、大島所長から具体的な内容をお聞きし、この地域協議会だよりの中で地域の皆さんに示していると理解した。ただ、平田伸一委員の話を聞いていると、それでは足りないのではないか。もっと方向性の内容を住民の皆さんに説明したらよいのではないか。地域協議会だより第53号と重複しても、再掲したらどうかという意見だと思う。それをどうするか。別紙として方向性を付けて住民の皆さんに配布するかどうか、まずそこを決めてほしい。

それから、渡部委員の意見について私なりに考えると、体育振興会が次年度の地域独自の予算に提案しているので、実行する主体となるのだと思う。もし、保坂副会長が言われたとおり記事を変えるのであれば、地域協議会の提案した内容は省いて、これを団体からの意見として挙げ、このアイデアが出ていることにすればそれなりの理解が得られるのではないか。

【竹内会長】

「地域活性化の方向性」に基づいた自主的審議事項の検討をずっと行ってきた結果、リーダー育成が重要ということになり意見交換会に至った。このアイデアは、そこに至る過程で委員の皆さんから出していただいたものである。

【吉田委員】

私もこの具体的なアイデアを見ると、この中のほとんどを実行すると勘違いする人がいるのではないかと思う。これは、私たちが「将来的にこのようなことができたらい」ということを提案したものであり、それがしっかりと分かるように記述したほうがよい。

【伊藤副会長】

この具体的なアイデアは、地域協議会が夏祭りの実行委員会の関係団体に提案をするために考え、今後に活かしてもらうためのものだということが分かるような文言にすれば、必ず実行されるという伝え方はされないのではないか。そのような書き方にすれば、地域協議会が関係団体のために考え、次にイベントを実行するときのためのアイデアだと分かってもらえると思うがどうか。

【渡部委員】

私も今の伊藤副会長の意見に賛成である。もっと詳細を説明する言葉でもよいと思う。そのほうが伝わる。とにかく伝えて受けとめてもらわないと、これだけを見たら、今年これが実行されるのかと舞い上がる人もいるかもしれないし、誤解が生じない工夫をしたほうがよい。

【吉田委員】

具体的なアイデアの後ろに（案）と加え、これは決定したことではないことが分かる文言にして、子どもでも読めば分かるようなものにすればよいと思う。具体的なアイデアは、案として出てきたものだとすればよいのではないか。

【平田伸一委員】

昨年の5月に「地域活性化の方向性」を決定し、地域協議会だよりに一回載せて周知したので地域の皆さんは知っているとするのではなく、広くいろいろな機会でのこの方向性に基づいて協議していることを発信していかななくてはならないと思う。例えば、公民館の掲示板にも方向性を掲出してあるが、理解してもらうためにはいろいろな方法で周知、発信しないと伝わらないと思う。まず伝える努力が必要ではないか。方向性を載せるか否かは、広報編集委員にお任せする。

それから、細かい具体的なアイデアが載っているが、これよりも本日の当日配布

資料No.2に掲載されている地域独自の予算の事業一覧を載せ、三郷区でこの六つの事業が計画されていることを知らせたほうがよい。実際に実行するのは地域協議会ではなく夏祭り実行委員会であり、取り組む内容については実行委員会にお任せしたほうがよい。私たちが考えたアイデアは、全世帯に知らせなければならないものではないと思う。

【竹内会長】

事務局、当日配布資料No.2の内容は掲載できるのか。

【大島所長】

資料と同じく「市議会の議決をもって成立する」という注釈を付して載せることはできると思うが、確認を要する。

【竹内会長】

事業名だけでも掲載できないのか。昨年の地域協議会だよりに「地域独自の予算事業が決定した」という報告の記事を掲載したと記憶している。

【難波主任】

今年度では、7月25日発行のたよりに事業実施団体名と事業名等の一覧を掲載している。

【伊藤副会長】

3月25日発行の第57号の次号の発行予定日は決まっているか。

【難波主任】

新年度のたよりをいつ発行するかは未定だが、毎年おおむね同じ時期に発行しており、今年度に準じて7月頃と考えている。

【伊藤副会長】

その頃には「市議会の議決をもって成立する」という注釈を記載する必要はないということか。

【平田伸一委員】

提案された六つの事業については、3月議会で議決されれば令和6年度の地域独自の予算となり、4月1日から予算が執行され、申請等の手続きが可能となる。例えば、三郷花を楽しむ会の皆さんは4月の交付決定後から活動し始めるだろうから、

もっと早く掲載すればよいと思う。7月に掲載しても議決した結果の報告でしかなくなる。それよりは、まだ決定はしていないが、3月の議案に掲載されていることを周知したほうが団体はもっと活動しやすいような気がする。最終的にどのように整理するかは、広報編集委員の三役と事務局にお任せしたい。

【竹内会長】

地域独自の予算の事業一覧をいつ、どのように掲載するか三役と事務局で検討することとしたい。具体的なアイデアについても、地域協議会が提案したものだということを強調すべきという意見をいただいたが、これも対応したいと思っている。

平田伸一委員から意見をいただいたとおり「地域活性化の方向性」には私たちの思いが込められており、皆さんと協議して去年の5月に決定したものである。これを様々な機会でも周知して地域の皆さんに伝える役割を担うのは、私たちである。私たちがどのようなことをしているかということも含めて、皆さんの思いを地域に伝えてほしい。

他に意見はないか。

なければ、いただいた意見を基にたよりを修正して発行し、地域の皆さんに配布することとしたい。原稿の内容や文言については、三役に一任していただきたい。

【平田伸一委員】

議題について確認したいことがある。

事務局にお聞きしたいが、去年の5月12日付けで「地域自治推進に向けたヒアリング調査のご協力について」という全28の地域自治区の委員にヒアリングとしてアンケート調査がされ、市へ回答を提出してある。私たちは、このヒアリングの結果を聞いていない。依頼文書には「現状把握と課題の分析を通じて理想的な姿を描くとともに、それを実現するための制度設計を行うこととしています」と書いてある。そのヒアリングの結果はどのようなものなのか、市はどのように現状把握して、課題をどう分析しているのか。そして、委員の4年間の任期が満了となり、令和6年度は4月29日から新しい地域協議会ができるが、何がそちらへ引き継がれていくのか。そのような結果を聞いていない。

去年の12月の市議会の一般質問でもその結果が出ているのか、反映されている

のかという質問があったと思う。私たちは、地域協議会委員としてアンケートに回答した当事者である。私たちに結果の報告が何もなく、このまま4月28日を迎えて4年間の任期を終わろうとしているのはどうなのか。今期の4年間が終わるにあたり、その辺りはきちんと整理してほしい。

【大島所長】

今の意見は、まさにおっしゃるとおりである。結論を言うと、現時点で皆さんにお返しできる地域自治の理想的な姿はまだ完成していない。併せて、それがいつ頃完成するのも申し上げられないという状況である。委員から意見があったことは承り地域政策課にも伝えたい。現在、様々なことを検討しているところでありまだ固まっていないという状況だが、なるべく早く皆さんにお示しできるよう本日いただいた意見を伝えたい。明確な回答がなく申し訳ない。

【平田伸一委員】

なぜこのようなことを話すのかというと、先ほどの活動報告会で地域協議会委員応募の手引きという資料の説明がされた。この手引きの中に何かが反映されているのかと思ったが、特になさそうで前回とほぼ一緒だと思う。私たち委員は、回答を求められたものを返しているのだから、今度は私たちに結果を返していただかないと、調査したのに新しく委員となる方に対しても役に立たない。そのような意味で、早急に報告していただきたいと思う。これは、私たちだけではなく全28の地域自治区の委員の思いだと思うので、ぜひ事務局から市へ催促してほしい。

【竹内会長】

この件に関しては、私から委員の皆さんに昨年の12月23日に開催された未来市民会議というシンポジウムの出席依頼のチラシを配付したが、私はそのシンポジウムに参加し、そこでも同じ話しが出た。ヒアリングをしたのに結果が出ていない。一体どうなっているのかと、平田伸一委員と同じことを参加者の皆さんが話していた。行政からの回答は、まだ動けるまでに至っていないと先ほど大島所長が言われたことと同じものだった。任期満了を迎えるところだが、まだ行政としての方向性が定まっていないのかと感じられた。同じ意見が他の地域自治区の委員からも出ており、この問題に関してはみんな同じ思いなのかと思っている。参加者には市議会

議員もいて、この意見に対する反論はしていなかったが、市は平田伸一委員が言うような結果を早く示し、次期の委員に伝えていかななくてはならないと思う。

以上で、次第4議題(1)「地域活性化の方向性」に基づいた自主的審議事項の検討についてを終了する。

— 次第5 その他 —

【竹内会長】

次第5その他に入る。

本日の会議は、任期の中で予定されている最後の会議である。先ほどの活動報告会でもこれまでの4年間の活動報告を行ったが、本日は委員一人ずつから4年間活動してきた思いを一言、発言していただきたい。

【市村委員】

あっという間に4年経ってしまったという印象である。人口減少が進み衰退していく地域の中で、いかに地域活性化をさせていくのかということ、すごく難しいと感じた4年間だった。誰を対象にどのような活動をしていくのがよいのかということも本当に難しく、これから活躍する若い人に向けてなのか、それとも三郷区に残っていく人たちに向けての活動なのかということもきちんと決めていかなければならなかったと感じている。

人口が減少していくのは仕方がないと思うものの、地域が活性化するために何か人口を増やす取組を考えて実行したかった。一つの地域だけではどうすることもできないし、市としてどのようにしたいのか大きな方針を出していただき、それに基づいて三郷区の中で活動していかなければならなかったのかとも思っている。その地域が活性化していく中で、春駒など小さなうねりから地元の人たちの結びつきで大きな成果につながっていくこともすごく大事だと感じた。

【伊藤光夫委員】

私も4年間があっという間に過ぎ、貴重な経験をさせていただいた。地域協議会がどのようなものか知らずに委員になって、ちょうど小学校や先ほども報告があっ

た保育園が統合されることになった。三郷区がこれからどのようになっていくのかと考えると、この地域協議会は本当に大事な会ではないかと思う。

前回の関係団体との意見交換会に来られた町内会長も言われていたが、町内会によっては1、2年で町内会長が代わることを考えると、地域協議会と町内会長等の連携が大切だと思う。町内会長が「地域協議会って何だろう、どのようなことをしているのだろう」と思っているという話も耳にした。

これからは、地域の皆さんに地域協議会の活動を知っていただくことが大事である。三役と事務局が苦勞されて作っている地域協議会だよりも、地域の皆さんにどれだけ読まれているのだろうか。私も失礼ながら、委員になる前はきちんと読み込んでいなかったと思う。

「たよりを紙で発行して皆さんに周知した」とするのではなく、これからは町内会長と連携し、町内会の皆さんが集まった際に委員が1人か2人出向いて町内会長に資料を渡して地域協議会について知っていただく、そのような行動が大切になってくるのではないか。地域が一体となって動くには、まず地域の皆さんに地域協議会を知っていただくことが大切だと思っている。

【小山委員】

地域協議会とは何かを全く知らないうちに「小山さんは、もう小学校のPTA役員になることはないでしょうから地域協議会委員をお願いします」と言われて引き受けてしまったが、今となっては大変だった。この4年間に小学校や保育園が統合されることになり、大きな変化があった。

後半の2年間は、私の「春駒というものがあるのだけれど」というちょっとした発言から春駒を掘り起こしてもらい、本当にありがたいという気持ちもあり、大変だったとも感じている。地域の皆さんに地域協議会のことをもっと知ってもらうことや町内会長とのつながりが必要だと感じ、貴重な体験ができた。

【平田清委員】

任期が間もなく満了するが、これまでもやもやしたものを抱えながら委員をしてきた。なぜなのかと考えると、上越市の地域自治区の設置に関する条例の中身がはっきりしない書き方になっているからだと感じている。条例を一度読んでいただけ

ば分かるが、目的は何かをよくすることらしいのだが、はっきりとは書かれていない。普通なら上越市のここが駄目だとか、このようにしたほうがよいということを考えて条例を作るものだが、この条例は地方自治法の文章をそのまま適用したような内容であり、地域協議会にどこまで権限を与えられているのかがよく分からなかった。

先ほど話があった、委員を対象としたアンケート調査でも、このくらいの規模の地域で地域自治区を作ってよいか、もっと広いほうがよいか問われたと思う。地域自治区の区割りについては、隣の和田区でも同じような問題、よいところがあるので、小学校区の単位ではなく中学校区くらいのもう少し大きい単位にするべきである。私は、町内会長を務めているため今期で地域協議会委員を卒業させてもらうが、続けられる方はその辺りも考えていただければよいと思う。

【平田伸一委員】

私は、町内会長を6年半務め、その間に民生委員も務め、三郷まちづくり振興会の立ち上げに関わった。4年前から現在まで、まちづくり振興会の役員を務めているが、委員改選の際に応募させてもらった。地域活動をしていく中で、したいことが二つあった。

一つは、歴史的なことを勉強したく保坂副会長が中心となって地域活動支援事業の補助を受けて「三郷のあゆみ」という冊子を数年前に一緒に作らせてもらい、成果が得られたことである。

もう一つは、西松野木と下四ツ屋に伝わる三郷の春駒の伝承である。これを何とかしたいが、どうしたらよいのか分からなかった。それを小山委員が地域課題にしようと提案してくれて、それから活動を始め、記録編と教本編の2枚組のDVDと音楽CDを作らせてもらった。それに関わることができた。

これらは、伝承の活動をしていくための下準備でありそれをさせてもらえたと思っている。今後、実際に活動していくには保存会を立ち上げ、そこで地道に継続していくことになるのだろう。これに関わることができ、非常に感謝している。

この4年間で思い起こしてみると、手術を受け入院してもその月の地域協議会に出席し、その次の会議も出席した記憶がある。欠席はしなかったと思っている。皆

さんにはお世話になった。

【山口委員】

このメンバーの中で、地域協議会の発足当初から委員であったのは、私だけかと思う。第2期の途中から「会長職を引き受けてほしい」と頼まれ、これは弱ったとなったが、事情を聞いて引き受けるしかないということになり会長職を引き受け、今期は竹内会長にお願いをして会長となっていていただき、今は委員の席に座らせてもらっている。

4年前に委員になった頃、皆さんから抱負を言っていたが、その時に「第3期で卒業しようと思ったが、また4年間皆さんの仲間に入れていただく」と話したと思う。平田清委員から今期で卒業するという話があったが、私もそのような思いである。

念願だった三郷地区公民館のトイレ等の改修について協議してきたが、なかなか意見書を市に出すまでに至らなかった。それが一つの反省点だったが、今期は保坂副会長が中心になってようやく市に意見書を出すことができ、市から回答を得られよかったと思っている。

【吉田委員】

私は、若い頃はほとんど地元にはいなかったが、帰ってきて地元の町内や三郷のことに携われればよいと思い、ある人から地域協議会に参加してほしいと頼まれ参加させていただいた。当初は任期が4年間ということを知らず、本当に務まるのかと思っていた。地域の課題を解決するのは難しいということを実感した。

公民館に関する意見書の提出に携わることができ、感謝したい。この1月に町内会副会長の任に就いたので、委員としての経験を生かしていろいろな問題に立ち向かっていきたい。

【渡部委員】

4年間お世話になり、感謝する。この4年間で地域のことを考えるきっかけをいろいろ与えていただいた。

人口の減少が最も大きな問題で、それが全ての問題を引き起こしているのではないかと。私も定年の60歳まで仕事をしていたので、三郷区に住んでいても地域協議

会のことを知らない状態だった。しかし、そのような外からの視点も必要なのではないか。地域の中では言えないようなことなどをここで発言させていただいた。

人とつながること、人を引っ張ることは、非常に難しいということも改めて感じている。自分からいろいろ行動してみようと思ひ、公民館の事業に参加させてもらひ、いろいろな人と知り合うことができよかったと思っている。地域協議会は、誰でも意見が言える場所だと思うので次世代の若い人、子どもがいる女性も委員になっていただきたい。

【保坂副会長】

私は、副会長という立場で事務局との事前打合せの機会もあり、とてもありがたかった。自分の力で生きているつもりになっていても、家族、町内の人、三郷区の人たちに支えられているという意識がすごくある。支えられているばかりではなく、お互いに支え合いながら三郷区をみんなでこのようにしようと話し合いをして、地域がよくなっていくための場があればよいとずっと思っており、それが地域協議会なのかと思う。

私たち地域協議会委員は、所属する町内会がそれぞれ異なっており、どこかに偏っておらずバランスはよいと思っている。一人で抱え込まずに意見を言える場があり、言ったことに対してみんなでそれぞれ意見を言い合える場は大事にしていかなければならない。そのような人たちをどんどん呼び込み、次期もまたよい地域協議会になってほしい。

【伊藤副会長】

私は、委員としては2期目で8年間、今期から副会長職を務めた。最初は何も分からず、地域協議会のことすら知らない状態だった。地域課題とは何なのだろうか、本当に分からず、委員になってよかったのだろうかと考えたときもあった。

もし委員になっていなければ、小学校の統合問題、保育園、春駒、公民館のことはおそらく考えなかったと思う。委員になったことでこの地域のことをよく知ろう、よく考えようと思うようになった。

委員になったからには何か一つのものを作って地域に貢献したいと考え、春駒の伝承のためのDVD作成に関わることができた。私たち地域協議会委員だけではで

きることは限られているが、三郷区のいろいろな団体との関係を密にして活動していけば、三郷区が盛り上がっていくのではないかと考えている。

8年間、委員を務めさせていただいたことにとっても感謝している。

【竹内会長】

会長として4年間、何とか会議の進行役を務めてきた。他の団体でも役員を務め、また現役で勤めているため、スケジュールが詰まり大変な面もあった。山口委員から話しがあったとおりに会長職を頼まれ、4年間の中で重責に押しつぶされそうな日が多々あったのが正直なところである。

委員の皆さんからいろいろな意見等をいただき、公民館に関する意見書をまとめられたし、春駒の関係も自主的審議事項として審議し、伝承への道筋ができて成果が出たと思っている。振り返ると皆さんとの関わりが最も糧になったと思っている。

今後も地域で小さな活動をしていきたいし、誰かが動かないと始まらないということもあり、まず動くことができる人材になりたい。三郷区の古い慣習がまだ残っているところが多々あり、それを変えていけるのがこの地域協議会であってほしいし、変えていかななくてはならないと思っている。ご迷惑もかけたが、感謝する。

委員の皆さんから4年間の思いを発言していただいた。皆さんが経験してきたものは、地域にとって大事な関わりになったと思う。今後もそのような関わりを地域と続け、いろいろな行動をしていただければよい。今後ともよろしく願いたい。

以上で、次第5その他を終了する。

— 次第6 事務連絡 —

【竹内会長】

次第6 事務連絡に入る。

事務局より説明を求める。

【滝澤副所長】

- ・その他の配布物：津有区地域協議会の地域活性化の方向性

男女共同参画推進センターのチラシ

創造行政研究所のチラシ 2種類

【竹内会長】

事務局の説明について、質問のある委員の発言を求めるがなし。

【竹内会長】

本日の議題は全て終了した。

- ・会議の閉会を宣言

1 0 問合せ先

総合政策部 地域政策課 南部まちづくりセンター

TEL : 0 2 5 - 5 2 2 - 8 8 3 1 (直通)

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

1 1 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。